



その恐怖は嘘じゃない

(SAFE)

『ポイズン』『ベルベット・ゴールドマイン』のトッド・ヘインズ監督作品



1995年カンヌ国際映画祭監督週間正式招待

主演-ジュリアン・ムーア(『ショート・カット』『ピック・リボウスキ』『ブギー・ナイツ』)

1995年 アメリカ映画 カラー 1時間59分

配給-ユーロスペース

(SAFE)

1995年カンヌ国際映画祭監督週間正式招待
1995年シアトル映画祭アメリカン・インディペンデント賞受賞
監督=トッド・ヘインズ
出演=ジュリアン・ムーア/サンダー・パークレー/ピーター・フリードマン
1995年 アメリカ映画 カラー 1時間59分
配給=ユーロスペース

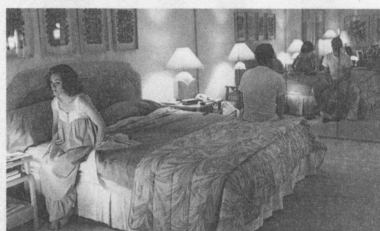


デイヴィッド・クローネンバーグ的インパクト!

——大場正明 [映画評論家]

◆最新作『ベルベット・ゴールドマイン』でこれまで以上に注目を集めるトッド・ヘインズ監督の前作『SAFE』は、化学物質過敏症を扱った映画である。ロスの高級住宅街に住む主婦キャロルは日常生活のなかで突然、吐き気やめまい、パニック症状などに襲われるようになり、化学物質が蔓延する世界のなかで追いつめられていく。日本ではいま、環境ホルモンやシックハウス症候群の問題が大きな関心を集めているだけにこの題材は興味深い。しかしこれはただ単に化学物質過敏症の現実と恐怖を描く映画とはまったく違う。

◆この映画の87年とロス郊外の高級住宅地サン・フェルナンド・ヴァレーという設定はヒロインが置かれた状況を理解するヒントになる。レーガン政権の80年代は貧富の差が大きく広がった時代であり、都市のスラムに残されたマイノリティは不満を爆発させ、時代の波に乗りきれなかった中流家庭は崩壊していく一方、富める者たちはさらに豊かになっていく。サン・フェルナンド・ヴァレーは大戦後いち早く郊外化が進み、新しいアメリカン・ドリーム象徴となったが、80年代には最も離婚率が高く、ティーン



ギャングが徘徊し、都心から流れ込むマイノリティのギャングとトラブルを起こす場所となっていた。そこで富める者たちは、さらなる安全を求めてヴァレーの奥へと逃避し、豪華な屋敷と生活で防備を固めていく。

◆ヒロインの豊かな生活にはそんな背景があるのだが、彼女が置かれたこの状況には話題の映画『トゥルーマン・ショー』に通じるものがある。主人公トゥルーマンは究極の人工的な世界に暮らし、彼の人生を支配してきたTVプロデューサーは、仮に主人公にすべてが虚構であることが露見しても決して彼はその世界を出ていくことはないことを確信している。なぜならそのなかに居れば絶対に“安全”であるからだ。この映画では、安全を渴望する万人の感情がプロデューサーの確信に凝縮され、その絶対的安全というものが主人公を裏切ることになる。

◆『SAFE』のヒロインもまた防備を固めた城ともいえる人工的な世界のなかで、自らをインテリア・デザイナーに見立て、模様替えを楽しんでいるかに見えるが、もっと残酷なかたちで同じ裏切りを体験する。彼女の心の支えであるはずの物の豊かさが牙をむくのだ。これをあくまで富める者たちの

話と思う人もいるかと思うが、それは大きな誤りだ。ヘインズ監督は、物とそれを補強する画一的で表層的な幸福のイメージに依存するライフスタイルのなかで、物理的にも精神的にも孤立していく核家族の運命を独自の視点と表現で掘り下げているのだ。

◆アメリカでは50年代の郊外化のなかで核家族の限界が次第に露呈し、60年代には若者たちが家族の枠組みを取り払って共同生活を送るコミュニオンを各地に作りあげた。『SAFE』のヒロインもまたコミュニオンに救いを求め、孤独を癒すような宗教的連帯感のなかで自分は救われたのだと信じようとする。彼女は決定的に変わったかに見えるが、まったく変わっていないものがある。



それは“安全”への盲信だ。彼女は、その安全を守り通すために本当の自分を捨てていく。安全があたかもドラッグのように彼女を蝕み、その致命的ともいえる毒性、常習性が浮き彫りにされる。デイヴィッド・クローネンバーグは人工的な環境における人間の内面的な病を象徴的な肉体の変容劇を通して描きだすが、そうした象徴的イメージを何ら使うことなく同等のインパクトを観客にもたらすところにこの映画『SAFE』の底知れぬ恐ろしさがあるのだ。

キラキラした狂気

——滝本 誠 (洋泉社刊『美女と殺しとデイヴィッド』から抜粋)

◆『SAFE』は、空気の中のある物質に体がアレルギー反応を示す特異な病いと田舎でのセラピーを正面きって取り上げた異色作なのだが、この映画はいわゆる難病ものからは遠く離れたまったく別のものだ。

映像に驚愕すべきクオリティ——すべてに焦点が合ったかのような、映像自体にアレルギー寸前のビリビリする緊張——が存在する。これ以上にシャープに解像された映像はちょっと想像できないほどのものなの

である。あえていえば、見ているうちに映像が目玉のなかで結晶化する感覚。ヘインズの次の作品はよりキラキラした狂気をもたすだろう。

2月中旬待望の独占ロードショー!

特別鑑賞券1400円絶賛発売中! (当日一般1700円/学生1400円/シニア1000円)

●当劇場窓口および都内各プレイガイド、チケットぴあ、チケット・セゾンにてお求めください。

●上映時間

連日	11:40	2:00	4:20	6:40
----	-------	------	------	------

ユーロスペース ☎03(3461)0211
渋谷駅南口下車2分 JTB前さくら通り上がる